

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

8月号 発行 平成25年 8月 27日



〈東日本大震災関連〉



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の7月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した16品目37検体のうち、15品目36検体は、検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出のあった1品目はピワで、基準値を超えたものではありませんでした。品目としては、ピーマン、ツルムラサキ、トマト（施設）、ミニトマト、スモモ（プラム）、ナス、バレイショ（ジャガイモ）、カボチャ、菌床しいたけ（施設）、シシトウガラシ、トウモロコシ、ズッキーニ、サヤインゲン、牛肉、原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした。7月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、ユズ、くり、たけのこ、ぜんまい、たらのめ（野生のものに限る。）、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ（露地栽培）です。また、さんしょう（野生のものに限る。）が出荷自粛となっています。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、7月末までの検査点数521,969点のうち99.7%の520,435点が測定機器の測定下限値未満、1,533点が基準値内で検出が確認されました。もち米1点が基準値を超過しましたが、管理されており、市場には出回っておりません。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、24年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果 (7月)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
15品目 36検体	1品目 1検体	0品目 0検体	16品目 37検体

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ピーマン 2	ツルムラサキ 1	トマト (施設) 4
ミニトマト 1	スモモ (プラム) 1	ナス 3
バレイショ (ジャガイモ) 1	カボチャ 2	
菌床しいたけ (施設) 2	シシトウガラシ 1	
トウモロコシ 2	ズッキーニ 2	サヤインゲン 5
牛肉 4	原乳 5	

〈一般情報〉



第1回いわき地域産業6次 化ネットワーク交流会を開 催しました

7月18日（木）、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議（事務局：いわき地方振興局・いわき農林事務所・水産事務所）主催による平成25年度第1回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催し、ネットワーク会員など約70名が参加しました。

農林水産業の振興のみならず、東日本大震災からの復旧・復興の手段としても注目されている地域産業6次化をさらに推進することが交流会の目的です。

ネットワーク交流会では、売れる商品づくりの専門家であり、福島県6次産業化プランナーや福島県農業振興審議会委員などを務め、福島県の農林水産業にも詳しい（株）ドゥーイットの本部映利香代表取締役が「6次化商品開発のヒント～売れる商品はこうして作る～」と題して、まず講演を行いました。

講演の中で本部氏は、物づくりに大切なことは、「柔軟な発想」と「消費者の話を聞くこと」であることをわかりやすいたとえ話を使いながら説明しました。

さらに、具体的な商品開発に当たっては、商品の試作に入る前に「市場調査」、「競合相手・類似品調査」、「だれにどのように売るか」の3点の検討が必要であり、この作業を省略して商品開発を行っても利益の出ない自己満足の商品になってしまうことを指摘しました。また、だれにどのように売るかを検討する際には、ターゲットを絞り、比較的高い価格でも消費者が「これでなければだめ」という商品を開発した方が良いとのアドバイスがありました。

次に、6次化商品PR及び開発検討交流会が行われ、4名の事業者が持参した商品について、本部氏が商品開発や販路開拓についてそれぞれの事業者にアドバイスしました。アドバイスは、商品を持参した事業者のみならず、他の参加者にとっても商品開発や販路開拓の参考になったようです。

その後、参加者間の交流の時間となり、参加者が盛んに意見交換を行っている様子が見られました。



(講演を行う本部氏)



とまとランドいわき名誉賞受賞 全国農業コンクール全国大会

7月18日(木)、第62回全国農業コンクール全国大会が、郡山ユラックス熱海で行われました。全国の20代表が集まり、本県からは、いわき市の(有)とまとランドいわき、須賀川市の(農)稲田アグリサービス((株)ジェイラップ)、昭和村の(有)グリーンファーム、郡山市の(有)降矢農園の4者が参加し、震災や原発事故からの復興に向けた農業の取り組み等を発表しました。

審査の結果、種芸部門では須賀川市の(農)稲田アグリサービスが福島民報社賞を受賞しました。園芸部門では(有)とまとランドいわきが、上位10代表に贈られる名誉賞を受賞しました。

(有)とまとランドいわきの元木専務取締役は、海外の生産技術を取り入れた高度なトマト生産体制を構築し、市場への安定供給を行っていることや、震災後も全従業員の雇用を継続し、地域活性化に貢献してきた実績を発表しました。震災や原発事故を乗り越え、安全安心な農作物生産と経営安定に努めた実績が評価されました。

(有)とまとランドいわきを始め、名誉賞に選ばれた10代表は、農林水産省と(財)

日本農林漁業振興会が共催で今年11月に開催される第52回農林水産祭に推薦され、農林水産業者の技術改善や経営発展への取り組みを表彰する天皇杯等3賞受賞者を決める審査に臨みます。



ふくしま復興祭が開催されました

7月21日(日)から22日(月)にかけて、いわき市の主催により、いわき市常磐湯本町にある21世紀の森公園でふくしま復興祭が開催されました。

ふくしま復興祭は、『「食」のオールスター、「物産」のオールスター』をサブテーマに被災地の食と物産を全国に発信する機会を創出するとともに、これまで被災地に支援をいただいた全国各地の自治体、団体にも参加を呼びかけ、食と物産を通して感謝を伝えると同時に新たな交流を深めることを目的としています。

メインステージでは、ふくしま復興祭「風とフクミライ」と題して福島県出身の著名人による音楽ライブやフラガールのショーが行われ、歓声や拍手が起こるなど、大盛り上がりとなりました。

一番盛り上がっていた「食のオールスターゲーム」コーナーでは、秋田県の「横手焼きそば」や宮崎県の「チキン南蛮」など全国のご当地グルメが集結し、グランプリを目指して競い合いました。ジャンボサイズのフライドポテトを袋いっぱい詰めた「東京ポテト」や「大阪大たこ焼き」には長蛇の列ができ、会場のあちこちでおいしそうに頬ばる様子が見られました。最終日、これらのグルメを押さえて地元いわき市を代表としてカジキグルメ実行委員会が出展した「ジャンボカジキバーガー」がグランプリに輝きました。

「ふくしまの食・いわきの食」コーナーでは、県内市町村の特産品やいわき市内の事業者による串焼きやかき氷、産地直送の農産物などの販売が行われました。市外から訪れた観光客は、いわきの食を味わう一方、いわき市民は、県内のそれぞれの特産品に注目するなど思い思いに楽しんでいました。

2日目の22日(月)には、いわきグリーンスタジアムで「マツダオールスターゲーム2013第3戦」が行われ、ふくしま復興祭を一段と盛り上げました。

この復興祭に足を運んだみなさんの熱い思いが福島のパワーにつながり、復興の一助となることが期待されます。



(人気の屋台には行列ができました)



(県内市町村の屋台が集まったコーナー)



いわき地方農薬適正使用推進 会議を開催しました

7月23日(火)、県いわき合同庁舎において、いわき地方農薬適正使用推進会議を開催しました。

農薬適正使用推進会議は、いわき地方における農産物生産の農薬適正使用を推進し、消費者に安全・安心な農産物を提供することを目的としています。農薬の適正使用については、毎年指導を徹底しているところですが、全国的に見てみると、依然として農薬残留基準値の超過事案が散見されているのが現状です。原因別にみると、使用者の不注意による農薬の不適正使用によるものが多くなっています。

いわき市内では、JA等の出荷団体による市場出荷のほか、直売所組合による直接販売が盛んに行われています。会議では、事故の未然防止に向けた農業者に対する注意事項の周知と栽培履歴の記帳推進、万一の事故時における出荷停止や事後対策などについて、関係機関の役割を確認しました。



有害鳥獣防止対策会議を開催 しました

7月23日(火)、県いわき合同庁舎において、有害鳥獣被害防止対策会議を開催しました。

有害鳥獣被害防止対策会議は、いわき地方における鳥獣被害防止対策を検討し、イノシシ、ハクビシン等による農作物被害の軽減を図るために開催しています。いわき市内では、電気柵の導入による防止対策が進んでいますが、そのほとんどは個人による取り組みであり、対策が遅れる農地への被害の集中や新たな農地への被害の拡大が問題となっています。会議では、集落などの地域ぐるみで取り組む被害防止対策についての取組事例が県農業総合センターより報告され、市内での研修会開催も決定しました。



(農薬適正使用と有害鳥獣の被害防止について意見交換されました)



福島県農地・水環境保全向 上対策地域協議会いわき方 部研修会を開催しました

7月29日(月)、いわき市総合保健福祉センターにおいて、福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会平成25年度いわき方部研修会を開催しました。

研修会には、市の担当者をはじめ、市内で活動に取り組んでいる32組織、74名が参加して、ため池の点検方法や農業水利施設の長寿命化に向けた補修技術等について研修を行いました。

研修では、ため池点検のポイントについて、県で作成したDVDマニュアルを見ながら実践的な方法を確認しました。水路の補修技術に関しては、少ない予算で施工延長を長くする工夫や水路の目地補修の手順などについて詳しい説明があり、今後の活動に大いに役立つものでした。

また、会場には農村風景や地域ぐるみの活動をテーマとした「ふくしま むらの輝き2012」写真コンテスト(地域協議会主催)の入賞作品が展示され、参加者の関心を集めていました。今年度も作品を募集していますので、多数のご応募をお待ちしています。

同協議会が扱う農地・水・環境管理支払

交付金（農地・水・環境向上対策）は、地域の手で農地・農業用水や地域環境を守る取り組みについて支援する制度です。昨年度から平成28年度までの5か年間の計画として第二期対策が実施されており、水路の草刈り・泥上げ、農道の砂利補充などを行う共同活動、施設の長寿命化を図るため老朽化した水路の目地補修や素掘水路からコンクリート水路への改修などを行う向上活動、東日本大震災により被災した水田や水路などの復旧を行う復旧活動について支援を行っています。

今年度は、市内33組織で共同活動、10組織で復旧活動が実施されています。これらの活動を通じて、地域の繋がりが更に深まり、地域の活性化が図られることを期待しています。



（いわき方部研修会の様子）



（補修技術の研修を受けました）



（昨年度の写真コンテストの優秀作品が飾られていました）



第11回農業農村整備事業 成果発表会が開催されました

8月2日（金）、郡山市の福島県農業総合センターにおいて、第11回農業農村整備事業成果発表会が開催されました。

この発表会は、県、市町村、土地改良区等の職員が参加し、農業土木技術のスキルアップと今後の業務の参考のため、年に一度、日ごろの成果を発表しているものです。

始めに、（独）農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所の後藤眞宏上席研究員から「小水力発電の導入による農業用水利施設の活かし方」について特別講演がありました。講演では、小水力によるエネルギー生産の仕組みや発電施設導入事例、発電規模毎の電力の活用方法や農業用水利施設の規模に見合った小水力発電の導入方法などの説明がありました。

また、福島県の復旧・復興のため全国から派遣されている「福耕支援隊」の活動報告として、相双農林事務所に派遣されている愛媛県の職員から、現在担当しているほ場整備事業に関する説明会の状況などについて発表がありました。

成果発表会では14件の発表があり、いわき市農地課からは、東日本大震災で被災した愛谷堰頭首工の復旧工事に当たり、工事実施期間の制約や用水供給等の問題があったにも拘わらず、仮設工法の見直し等により約30%のコスト縮減を図った事例発表がありました。

また、いわき農林事務所からは、地元で設立した地縁団体を活用して、相続等で取得が難しい共有地を農道用地として取得した事例の発表を行いました。

今後とも、農業農村整備事業の推進にあたっては、常日ごろから問題意識を持ちながら、諸課題について対応していくとともに、今回の成果発表会で得た知識や技術を業務に活かせるよう努めてまいります。



（いわき市は復旧工事の事例発表を行いました）



いわきの里川前ふるさと体験 交流委員会を「子ども農山漁 村交流プロジェクト福島県モ デル」に認定しました

8月5日（月）、いわき市川前町の川前町商工会において、グリーン・ツーリズム（※1）の実践団体であるいわきの里川前ふるさと体験交流委員会に「子ども農山漁村交流プロジェクト（※2）福島県モデル」の認定証書を伝達しました。これは、委員会が平成22年度から引き続き県モデルの認定を希望し、福島県ふるさと子ども夢学校推進協議会長から認定されたものです。

いわきの里川前ふるさと体験交流委員会は、県・市・商工会・農山漁村関係者の連携により、いわきの里鬼ヶ城、いわき市川前支所、農業・漁業協同組合等の協力のもとに安全・安心な受け入れ体制を整えて、県内だけでなく東京等から広く小学生・親子を受け入れ、農林水産業体験、食事作り等の体験プログラムを実行してきたところです。

東日本大震災により停滞を余儀なくされた活動は再開しているものの、震災以前ほどの実績に戻らない現状ですが、本田会長からは「東京都港区の団体との継続した協力体制を構築している。」「キジ料理等の川前町独自の魅力ある活動を実施していきたい。」「11月に開催される全国グリーン・ツーリズムネットワーク福島大会（※3）を契機に、いわきでのグリーン・ツーリズム活動が盛り上がることに期待している。」といった、復興に向けた前向きな発言がありました。

農林事務所は、いわき地方振興局と連携しながらグリーン・ツーリズムの実践団体を継続して支援していきます。

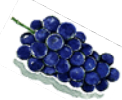


（委員会の本田会長へ認定証書が手渡されました）

※1 農山漁村地域において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

※2 小学校高学年を対象に一週間程度の農山漁村交流・滞在の生活体験を推進する、文科省・総務省・農水省の連携事業。愛称：ふるさと子ども夢学校

※3 全国のグリーン・ツーリズム実践者や都市と農村の生活者が集いグリーン・ツーリズムの展開と継続的な発展を目指して交流を行う大会。昨年度の開催地は福井県。



農産物販売キャンペーンを 実施しました

前日の夕方からの激しい雨とは打って変わって、夏らしい日差しとなった8月7日（水）、たいら七夕まつりの会場（レング大通り）において、農産物キャンペーンを実施しました。

このキャンペーンは、県産農林水産物の風評を払拭するために、東日本大震災の直後である平成23年4月から実施されています。昨年までは県下一斉にスーパーマーケットや直売所で実施しました（平成24年度、いわきではマルトで4回実施）が、今年度は、地域の実情・特性を生かした形で3回実施する計画となっています。

今年度1回目となる今回は、たいら七夕まつりの中日である7日の午前10時30分から12時まで行い、安全・安心な農林水産物の生産、流通体制を図っている福島県産、特にいわき産の農産物をPRしました。また、「食べて応援しよう！」をテーマに、市内で生産されたブルーベリー、エリンギ、シイタケをプレゼントし、夏休みを迎えた小中学生や小さな子ども連れの家族が多く訪れ、喜んで受け取っていただきました。「菌床きのこは安心だよね。」「県産の野菜、いつも食べているよ。」といった声をかけていただき、好評のうちに終えることができました。

県では、今後とも、消費者・食産業界関係者・農林漁業者のみならず一体となり風評の払拭に向けて取り組んでいきますので、県産農産物を食べて応援してください。

なお、第2回は、9月28日（土）に道の駅よつくら港で予定しています。



(キャンペーン開始を待つ行列)



(いわき産の農産物を食べて応援してね！)



森林環境基金事業成果発表会 が開催されました

8月7日(水)、福島県農業総合センター多目的ホールにおいて、森林環境基金事業成果発表会が開催されました。

森林環境基金事業は、平成18年度より福島県で取り組んでいるもので、森林環境税を財源として森林環境の保全や森林を県民全体で守り育てる意識の醸成を図ることを目的として、水源地域の手入れが遅れた森林の整備や間伐材の利用促進、森林づくりへの県民参画などを推進しています。この取り組みについて、広く県民に情報発信するとともに、事業担当者の情報交換及び研鑽を図る目的で、発表会が開かれました。

今年度は、小中学校や高等学校が主体となった森林環境学習への取り組み状況を中心に8件の発表が行われました。

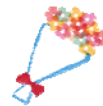
いわき管内からは、湯本第三小学校の磯崎晴美教諭、男庭幸恵教諭が「外部講師を活用した森林環境学習の実践」と題して発表しました。湯本第三小学校では、従来行ってきた学校周辺山林での体験活動が原発事故の影響により自粛せざるを得ない状況となりましたが、「もりの案内人の会」との緊密な連携により、昆虫学習や低線量地域でのフィールドワークを実施し、児童

に森林のすばらしさを体験させることができたとのことでした。

その他、原発事故後の対応に苦慮しながらも森林環境学習や学習フィールドの再生活動を実施した事例や県立岩瀬農業高等学校の生徒による希少植物サギソウの保護への取り組みなどの発表がなされ、活発な意見交換が行われました。



(湯本三小の発表風景)



いわき市農林水産業振興大会 が開催されました

8月8日(木)、いわき市パレスいわやにおいて、いわき市農林水産業振興大会が開催され、市内の農林水産業の生産者ら約200人が参加しました。

始めに、渡辺敬夫市長から「いわきの基幹産業である第1次産業の復興なくしていわきの復興はない。いわき農林水産業の復興に向け、各種施策に全力で取り組んでいきたい。」とあいさつがあり、来賓代表として、根本茂市議会議長が祝辞を述べました。

続いて、東日本大震災以降、第1次産業に就いた17名(うち農業部門5名、林業部門12名)が激励を受けました。農業部門は甲高光JAいわき市経営管理委員会会長が代表の下山田善裕氏を激励し、林業部門では田子英司市森林組合長が代表の渡辺大地氏を激励して各々に対して記念品が手渡され、下山田氏、渡辺氏がそれぞれ、感謝と決意を述べました。今回、水産業部門では就労者はいませんでした。吉田喜中之作漁業協同組合代表理事組合長が「風評に負けず、新しい仲間を増やしていきたい。」と水産業復興に向けた決意を述べられました。

それから、第37回市農林業賞の表彰が行われ、渡辺市長がJAいわき市梨部会の松本明能部会長、農事組合法人いわき菌床椎茸組合の磯上浩一組合長理事にそれぞれ賞状と盾を手渡しました。受賞者を代表して、松本部会長が「震災、原発事故、風評

に負けず、毎日の努力を積み重ね、地域農業の復興に力を尽くしていきたい。」と謝辞を述べました。

このあと、東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科の関谷直也准教授が「風評のメカニズムとその対策」と題し、「風評の払拭に向け、農産物の安全性に加え、いわきの良さを伝えていくべきだ。」と講演されました。情報交換では、市長を囲む地産地消昼食会も開かれ、参加者がいわき産の野菜や果物などを使った「いわき産新鮮野菜のゼリー寄せとカツオのサラダ仕立て」「カボチャと長ネギの二層スープ」など5品を堪能しました。

大会に参加されたみなさんは、いわき産農産物の美味しさ、すばらしさを再認識す

るとともに、さらなる農林水産業の推進を誓い合いました。



(いわき市農林業賞はJAいわき市梨部会と
いわき菌床椎茸組合が表彰されました)

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（9月は8日(日)）に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

※ 営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

- 1 フレンチレストラン ラ・フォンローズ（平字新田前）
地産地消メニュー：コース全般（前菜からデザートまで。6,000円～）
説明：メニューの一部に、県産の野菜（ナス、きのこ等）を使用
実施日：毎日（不定休）
- 2 いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）
メニュー：①注文弁当 ②日替わり弁当 ③惣菜
説明：いわき、福島県産の安心・安全な食材をふんだんに活かした料理を楽しんでください。
- 3 遊食屋ガーデン（泉ヶ丘2丁目）
推進日を含む毎日のメニュー（要予約）
地産地消メニュー：ランチ（2,000円～）、ディナー（5,000円～）
説明：野菜（ほとんどいわき産・県産）をたっぷり使用し、塩分や脂肪分を控えめにしたヘルシーな本物の料理を閑静な住宅街で味わってください。

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますので
どうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報

(1) モニタリング情報検索

(2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」

及び「原発事故」からの
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

いわき農林水産ニュース

